

磐城申正新報

發行日 毎月一日、十五日
 定額 一月一元、三月三元、半年五元、一年十元
 郵税 共 一部金拾銭
 廣告料 普通部十二字一行情
 一回八十錢、場所指定
 一回二十錢増
 印刷 安澤榮 作
 發行所 磐城申正新報社
 編輯 安澤榮 作

久瀨元帥宮殿下の 薨去を悼み奉る

皇后陛下の御父君におはしに則らせられ中學を府立第
 ます 久瀨宮邦彦王殿下に中學を選ばせられたる如
 は此の程熱海御滞在中突然に如何に國民の生活に深き
 御發病あらせられ續いて御御理解と御用意の深かり
 重体との御事三陛下を始しを拜察すべきである、
 め奉り各宮殿下の御深憂は斯くて殿下は三十年陸軍歩
 申すまでも長し國を擧げ一愕兵少尉に御任官其後陸軍大
 さ悲み御全快の一日も速く學校へ御入學遊ばされた皇
 らん事を祈り奉り甲斐も族の御身を以つて陸軍大學
 なく一月二十七日午後零時校へ御入學遊ばされたは又
 二十九分途に薨去あらせ給殿下が御初であると承る
 ふ 殿下は故一品朝彦親王 眞に久瀨宮殿下は陸軍部内
 殿下の第三王子にまします 柱石として各宮殿下と共に
 朝彦親王殿下には維新の際にゆるぎなき永遠の國家の
 勤王の志士がひたもの仰で 生命を重く擔ひ給ふた。
 以つて皇國の柱石と慕ひ奉 聖と陛下には、殿下御勤功
 りし御方で邦彦王殿下の御の顯著なるを思召され御危
 年少時を全く平民的遠境に 篤の報天聽に達するや元帥
 おかせられた、即ち小學は 府に列せられ菊花頭飾を授
 京都今出川なる平安義塾中 給ふた、天恩鴻大添き極
 學は京都府立中學を経て東 米である尙殿下は軍事のみ
 京成城學校に御入學、明治 ならず特に殖産興業美術工
 廿六年を以つて士官候補 藝等にも御心を注がせられ
 として第三師團第六聯隊第 各種の民間事業を御獎勵遊
 九中隊に御入隊遊ばされ されたる事を特筆せねばな
 皇族の御身を以て士官候補 殿下の御力に依つて民
 生として御入隊遊ばされし 間の事業が振作され發展の
 は實に邦彦王殿下が御初め 途に向つた事の數限りのな
 であると承る、さば陛下の ことは國民がひたすら満
 の第一王子朝融王殿下の御 腔の感激を以て永久に記憶
 學事についても此の御方針 新にせねばならぬ。吾等
 等は幾度も九重の大奥の御

民政黨の弱點と オレガ主義

青 山 南 天 生

國民が斯く仰慕し奉つた殿嘆きを遙に拜察し涙の止ま
 ずは今や永遠に神去り給ふるを知らず。謹しみて殿下
 た天地暗澹愴愴しいかな吾の薨去を悼み奉る
 等は幾度も九重の大奥の御

天下の名士加藤高明氏逝て 紛は常に團結力を喪ひ闘士
 眠る其繼承者として當代に の銳氣を挫折する所以のも
 と雖も時代の逆境に逢遭し 抑も戰の勝敗は上下の一致
 其志を伸ぶる能はず時機の 則ち團結力の強固なるに
 到來を窺ふの時に際し突如 則ち團結力の強固なるに
 願問たる床次氏を失ひ亞て この温情が少くない従つて團
 脫黨者の續出を見るに至つ 結力が強固でない之則ち民
 其間種々の内紛を醸生 政黨の弱點と言ふべきであ
 其鎮撫に苦慮しつつある 總裁に既に濃厚篤實が
 る世評を博すと雖も其幕下 於て合併承認を得て主務省を取扱ふと
 の者多くは此温情に乏しく 於て合併承認を得て主務省を取扱ふと

平銀行の看板 掛替は今月中旬か

三十年の歴史ある 平銀行が 常銀警行平支店に

磐城の大銀行として自他共へ認可申請中なれ運くも今 に許し信用益々厚く堅實な月中に認可されるであらう の營業振りと三十年の歴史尙は新任支店長中村梅三郎 を有する平銀行も一昨年來氏は曩に古河支店長として 中央財界の動搖と引き續き 各名ありし新進氣鋭の敏腕 餘波を受け遂に昨年十一月 下各地の休業銀行續出の 中一ヶ月の休業を發表し休 家で氏獨特の腕の研いを見 業期間中に整理を完成し且 餘富岡新山の三出張所が廢 つ常銀唯一の大銀行たる 止され其の他は從來の平銀 警銀行との合併成立し十二 行出張所を常銀銀行出張所 月廿六日の兩行株主總會に 改稱し従前通り一般事務 於て合併承認を得て主務省 を取扱ふと

多少の波亂を 豫想される

平町長の選挙も 結局は伏見氏再選か

平町長の任期は愈々二月二 某氏は語る
 十二日で盡き再選か又他に 井坂町長の後を襲き助
 適當なる新人物を物色する 役より昇格した伏見氏は
 か杯諸説區々であるが 就任當時は左程目に付く
 右に就き公平無私を標榜す 治績も見いながつたが其

二百の投票が どう岐かるか

多額議員の補選迫る

本縣多額議員補選の期は政友五十六名民政五十 日も愈切迫し政民兩派共に九名残りが中立の九十五名
 猛烈なる運動を開始しつゝとなり兩派殊に政友派は自 果は非常に注目されてゐる中立有権者の動き如何にお
 あるが此の勝利の軍配が果 派を極く内輪に見積り中立
 して何れに擧がるかこの結 果は非常に注目されてゐる中立有権者の動き如何にお
 此の勝敗は勿論有権者の向 りとの見解の下に策動と民
 背に依つて決せらるゝ事は 明かであるが二百名有権者方を以つて閣中飛躍を試み
 の色が最も注意を拂はれつ てるが期日の切迫に伴
 てゐる政民兩派各自派に都 一の好計算を爲し取らぬであらう候補者は何れも本
 台の好計算を爲し取らぬであ 権者の向背を政民兩派幹部 太郵政友大島要三民政の兩
 権者の向背を政民兩派幹部 太郵政友大島要三民政の兩
 権者の向背を政民兩派幹部 太郵政友大島要三民政の兩

金子秋次郎

提、灯各種
五月 職
製造 元
平、紺屋町

後上水道の完成大瀧發電 所問題、第三、第四小學
 校敷地問題の解決町役場 新築移轉等が先づ重なる
 治績である、尙數年後に は市制を布かんとす、前
 提として區畫整理は勿論 日に月に伸びて行く大平
 町建設の道程にある、今 日であるから町民諸君は
 勿論明議諸君も是非今後 の一期間は伏見氏を推す
 のが至當であらう。或る 一部では青沼氏説もあり
 又水野警炭庶務課長や井 上氏説などあるが何れも
 人物に不足はあるまいが 何しろ大平町建設に就て
 は前途に幾多の難問題も 横はりゐる今日町の事情
 に精通してゐる伏見氏の 再選は最も策を得たるも
 のと思ふ尙五月の町議改 選は普選第一回の選挙故
 定めし少壯新議の當選と 相當の數に上るものと目
 られてゐる現町議諸君も 此の點に着真し自治愛護
 の精神を以つて政黨政派 を超越し深思熟慮を要す
 る問題だと思ふ云々

新年の勅題

田家の朝

御製
都て、とほく來ぬれば吹きわたる
朝風きよし小田のなか道

皇后宮御歌

この年もみのりよかれといのらむ
小田のさと人朝日をかみて

皇太后宮御歌

年へぬる壁のいろさへあきらかに
朝日かよよ小田のさと

郡下各町村會

議員の選舉準備

郡下七町廿七ヶ村の町村會は四五名多きは十名以上の議員選舉は五月八日の内郷立候補を見るべく豫想され村を皮切りに七月四日勿來てゐる、何しろ普選最初の町と最終に普選第一回の選舉であり各町村とも何れも執行されるが從來の選も燃るが如き自治愛護の士舉と異い納税及年齢並に住が逐廉場裡に奮戦する事な居の改廢等に依り著しく選れば政見發表の演説にボス舉権者を増大し舊法當時にター戦に定めし目醒しき新比すれば約三倍に達してゐる運動が展開されるであらう五月と言つても今は二月何れにしも来る舊正月の年の上旬餘す所は中二ヶ月各始廻禮頃より翌二月の農閑町村共氣の早い連中は今か期を利用し相當準備に取り寄々協議中だが各町村何掛る向もあるやに聞くれも定員を超過する事少

小川江開鑿に

隠れたる功勞者

歡順和尚の記念碑建立

石城郡下小川、平窪、赤井年及でゐるが同江筋の元神谷、草野、大浦、大野、祖たる澤村勝爲氏の一大事四倉の各町村の耕田三千餘業を援助した草野村大字泉町歩に灌漑の便に供しての崎光明寺住職故歡順師の隠る小川江筋は開鑿以來數十れた功勞に酬ゆる爲め同

組合員は去る廿五日の總會となり本年中に竣工し併せに歡順師の記念碑を同村光明寺境内に建立し一般組合員から總工費五百圓を支出し他は一般の寄附を募らした

俳句

吉岡獨歩選

小川 郷 本 松 甫
踏み消して勢子の散らばる焚火哉
崖高く水柱見上げつ子等二三
類杖に思ひ入る夜や置き炬燵
燃え細る焚火に闇の迫り來し
日すらうら軒の水柱の點滴す
雪曇り炊煙疎林に搖曳す
煩冠り外づして交ちる焚火哉

植田水力電氣

今期の營業成績

此の不況時に八分の配當

社運益々隆盛に向ひ

金成社長の恵比壽顔

前期繰越金	二、四一五、五四〇
五日午前十時同社に於て開計金	八五、一五八、七六〇
會金成社長より諸般の報告を爲し其より貸借對照表、財産目録、損益計算書、及利益金處分承認を求めたるに満場一致承認し全部の議事を終了し同十一時閉會した今期の營業成績左の如し	
当期總益金	二四二、二一九、三三〇
当期總損金	一五九、三八六、一一〇
差引当期利益金	八二、七四三、二二〇
前期繰越金	二、四一五、五四〇
計金	二、六六三、〇六〇
財産減價銷却	一五、〇〇〇、〇〇〇
社債利子引當	七、九六八、七五〇
再差引	六二、一九〇、〇一〇
内	
法定積立金	五、〇〇〇、〇〇〇
従業員退職	一、〇〇〇、〇〇〇
扶助資金	四、〇〇〇、〇〇〇
役員賞與金	五、〇〇〇、〇〇〇
株主配當金	五、〇〇〇、〇〇〇
(年八分)	
後期繰越金	二、一九〇、〇一〇

井上福島高商教授の砂糖精製法の新發見

一俵の生産費僅かに三錢五厘

福島高等商業學校教授農學士井上兼雄氏は數年前以前より砂糖の精製法に就いて研究中の處此の程漸く完成し昨年十二月二十四日より本年一月十四日まで三週間に亘り北海道清水明治製糖會社工場に於ける實地試験に於て見事に成功し好成績を揚げた

此の發明は精糖界に於ける畫時代的のものであつて甘蔗甜菜及其他の植物より搾取した糖汁又は其等より製造した粗糖の水溶液に左の如き方法により直接糖汁中に於て亞鉛「ハイドロサルハイド」を生成せしめ攝氏五十五度以下の温度に温めた後石灰乳を加へて中性若しくは微「アルカリ」性ならしめ水酸化亞鉛及亞硫酸石灰を沈澱せしめて攝氏九十五度に加熱し糖汁の脱色及清澄を安全ならしむる方法で其の目的とする所は極めて容易に且つ低廉に精糖を行ふにある

從來曹達「ハイドロサルハイド」は精糖用脱色劑として知られてゐたが分解物たる曹達鹽類は糖汁中に溶解殘留して精糖の結晶を妨げる恐れあるが日午前九時より平稅務署樓點で審査員小池地方技師以

逸より輸入した染色用曹下各審査員が嚴重審査の結果「ハイドロサルハイド」果入賞者二十四名に夫れが杜絶した爲め我が國に賞品を授與し盛會裡に於て製造せんとしたが裝閉會したが成績は一般に良置困難であるのと經濟的好であつたと入賞者左の通り

- 酒母の部
- 小名濱町 小野晋平
- 平窪村 松本徳一
- 同 松吉屋酒造店
- 内郷村 四家 又一
- 警崎町 御代武兵衛
- 植田町 齋清 昇
- 外七名
- 麴の部 (優等)
- 高久村 鈴木喜太郎
- 平窪村 松本 徳一
- (一等)
- 高久村 鈴木兵十郎
- 赤井村 渡邊 貞三
- 川部村 芳賀嘉右衛門
- (二等)
- 草野村 豊田 吉松
- 外二名(三等)
- 飯野村 永山 繁木
- 外二名

石城郡酒造組合主催の酒母麴鑑評會と受賞者氏名

石城郡酒造組合主催にかゝる上に於て開催されたが酒母麴の鑑評會は去る廿三出品八十五點麴出品三十三日午前九時より平稅務署樓點で審査員小池地方技師以

泉校増築竣工

本郡泉村小學校は児童の増加に伴ひ校舎の狹隘を感じ昨年より植田町中山吉之助氏の請負で増築工事中の處今回全部竣工を告げたので本月中旬同校々堂に於て盛大なる竣工式を舉行し同郡下小學校児童の成績品展覽會も開催すべく各校へ出品勸誘中であるが定めし當日は空前の賑を見らであら

な店舗を開いて彫金業に従なり引立に依つて諸方から後方一棟に引退し表看板が美術界の代表として民衆に來してゐると何處で聞いた依頼がある様になり、後東ら凡てを私に譲つたのであり垂延されてゐる尙北川氏か本所荒井町鬼神寺の代表京寶石株式會社の金工部長者といふ方が來訪せられ是にもなつたことがある會つ張り以前通り作品の手を息の農商務大臣として各名あ

有價證券 株式賣買 鈴木彌米商店 平町大 二一七

内郷村小島 薄硝子製造所 薄 次郎

菓子製造 島の家 中里商店

御料理 喜久乃家 平町南町

彫金界の巨匠 北川北仙氏を

出張所に訪ふ

特賣 福島縣清酒品評會

有價證券 鈴木彌米商店 株式賣買 平町大 一七

薄硝子製造所 薄硝子次郎

菓子製造 中里商店 島の家

喜久乃家 御料理 平町南町

彫金界の巨匠 北川北仙氏を

出張所に訪ふ

巷間説を爲すものあり平町夫れより談は進んで氏の経七丁目鑄造家工藤源吉氏方歴と藝術家としての感想へ水戸の北仙先生が出張し問へば氏は謙遜しながら左彫金に従事すと又説をなすの如く語る

な店舗を開いて彫金業に従なり引立に依つて諸方から後方一棟に引退し表看板が美術界の代表として民衆上

何だか急に淋しさを感して 知らなかつたが然し新人必すしも古人に劣ると云ふ理

後者の説が仲々有力であつた好奇心に驅られ記者は父は世間でも知る如く却々或る日小閑を得て其の真偽を確むべく(北川氏に對し)は甚だ失禮であつたかも知れぬが)七丁目工藤源吉氏方を訪へ刺を通じ來意を告ぐれば氏は快く面接し私

因に氏の作品は内地は閑院宮、梨本宮、華頂宮を始め各宮家全部の御採納は勿論海外では英國皇太子コンノ

平銀行の總會 店代理トンメセ城磐 店藥屋村西

に工藤氏父子の心事の高潔にして眞の藝術家として實に模範的人物である所に共鳴し最近赤井嶽十二神將鑄造の大事業を工藤氏が請負

昨日見えて來たが實によかつたよと言はれ思はるる赤容に傳へずには何と感したか翌年の春から彫刻せし土表入に用ゆる太

純益金 八、七、七、二、八 法定準備金 五、〇〇〇、〇〇〇 解散諸費 三、七五〇、〇〇〇 配當金 五、三三、〇〇〇 後期繰越金 一八、七五〇、〇〇〇

山崎合名會社 醬油醸造元 特賣 たひら正宗 福島縣清酒品評會 一等賞 受領

和洋銅鐵 久釜屋商店 諸橋久太郎 電話九番一三九番

藤沼醫院 入院應需 平町紺屋町 電話平五〇七番

商標 男山 縣下清酒品評會 於優等一等 金銀牌數回受領

石城郡飯野村 永山 繁木 醸造元

防寒具の御用意は!!

トンビ 九、〇〇ヨリ
オーバ 七、〇〇ヨリ
モチリ 四、五〇ヨリ

其他各種豊富着荷
舊年末、舊正月二日の大賣出しは特に大勉強

なかや洋服店
平町二丁目(電二〇三)

江口清
四倉町

中川材木店
平町大工町
電話五五六番

日本石油株式会社代理店

關彰商店平支店
平町一丁目

平町信用組合

組谷長 大谷久藏

平町四丁目

山城屋商店
電話一六二番

飯田書店
平町一丁目

内郷村小島

佐藤材木店
店主 佐藤三平
電話四三〇番

豊間村

新喜久御料理店

野崎自動車停留場
新設電話二五番

四倉町

水野屋商 長谷川好之助
電話七番

日本型セメント瓦製造
東洋瓦工業販賣

渡邊熊藏
四倉町本町通り

舊年末年始の御用は是非

藤市

蒲鉾製造折詰類仕出し

店主 遠藤市松
平町二丁目 電話三〇五番

富國徴兵保険相互會社

代理店 長瀬富彌
平材木町 電話三三一番

平町二丁目 荒物雜貨 卸小賣 大一屋商店
電話一三番

大勉強 元喜樂跡

浩樂
四倉町 電話六一番

平町鎌田

岡田牛乳舎
電話五一番

大勉強 丸屋タビ店
平町一丁目

平町紺屋町 御料理館 住吉屋本店
電話一五九番

平町四丁目 荒物雜貨 伊勢屋商店
電話四五番

平町三丁目 大黒屋 勝治商店
電話一六番

平町二丁目 勉強の親玉

山家メリヤス店
電話六〇五番

平町搦槌小路

青果問屋 小川屋商店

平町二丁目裏通り 小松崎本店
電話七七〇番

萬洗張 小松崎支店
平町仲町

クリーニング

海老原洗濯店
平町搦槌小路

靴

品の御用は是非弊店へ
品が良く値の安いのが評判

仙台屋靴店
平町搦槌小路

歳暮福引 大賣出し
二月一日(舊二十二日)より五日間
御買上金五圓毎に福引券進呈

御正月の御祝に 可愛な嬢様のスカーフ、キナキネマ、女優や昭和童謡入の羽子板、坊ちゃん御好み、武者人形、

羽子板破魔弓
御買上一圓毎に福引券呈上
種々陳列致しました
是非御用命願ひます

平町四丁目 ノヤ提灯店
電話七二番

平町三丁目 三井呉服店
電話三八七五番

銘酒 近盛

馬目支店
平町 電話二五四番

平町青物商組合